

<研修会のテーマ+α>

村上定幸

【葬儀】今年の教会役員研修会のテーマは“葬儀”についてでした。でもちょっと思いなおしてみましょう。葬儀だけがぼつんと行われるということは、教会ではありません。特別な場合を除けば(この特別な場合については後で述べます)、教会員が教会生活を締めくくる“礼拝”です。また信仰生活を貫いてきた者が、御国に召される厳粛な証しの時でもあります。

【教会の営み】ですから、教会の働きの中で理解する必要があります。今年になって、葬儀が行われましたが、教会を代表しての祈りがなされ、会員による讃美が行われます。長い間、共に信仰の生活を守り、教会員がむかえる、主に招かれての礼拝になります。そこで私たちは、このように葬儀の行われることに感謝し、御約束の確実なことを、神の言葉として説教の中に聞きます。

【何時か召される】私たちの教会の友は、何時か召されます。間違いなく召されますし、そうでした。ですから、私たちが、隣人愛を御言葉により教えられる時、その兄弟姉妹の肉体の死にも関わるということになります。研修会でも強調されたことですが、葬儀を行うという時には、そこにはその姉妹の、地上における生き方が、その葬儀を決定するほどに、大きく存在しているということになります。またその反対もそうでしょう。

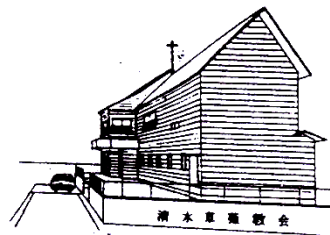
【福音というのは復活のこと】パウロという伝道者は、“復活がなければ福音はむなし”と言っています。私たちは、この信仰者の執り成しの祈りに支えられ、召されるまで“主に導かれたものにふさわしい毎日をおくらせて下さいませ朝に、日毎の手の業を祝福して下さい”と祈ることができます。生まれた時も、新生の恵に与る時も、結婚する時も、召される時も“この十字架の前で守られるのです”。実に豊かな恵みです。

【自死】最近“自殺”とは言わないようですが、自殺こそ最終最悪の罪と、私たちは教えられます。先に言葉を使いましたが、特別な場合の一つになるでしょう。幾つかの教団では“自死”を特別扱いしたり、自死を選んだ者の葬儀を行うことを禁止していることもあるようです。しかし、実際に直面した時に、そう簡単に話ができるのでしょうか。また、家族を失ったものに、教会は関わられるのでしょうか。教会は日常の歪の全てを引き受ける時があります。死だけではなく、特別な場合の一つに“同性愛者の結婚”ということにも教会は直面しています。“気持ち悪い”と一言いうだけでは解決できないのが現実になってきています。“ローマ書”が語るように、被造物全体が、破壊を経験し呻き、犠牲者を産み出しているのです。この観点からもう一度アプローチすべきでしょう。

【遺言】先の総会で“私の葬儀”についての計画を、教会として保管することの提案がなされました。もう一度思い出して、まだの姉妹は用意しましょう。できるだけ喪主になりそうな方が、教会とすすめることができるようにしましょう。キリスト教式で、仮に行われなくも、天国に行けないということはありませんが、しかし葬儀は、礼拝として大切にして行かなければならないことです。

週報

2011年 7月 24日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042